

大学の世界展開力強化事業（平成29年度採択）事後評価結果

大学名	広島大学
整理番号	A102
事業名	先端技術を社会実装するイノベーション人材養成のための国際リンケージ型学位プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 A	事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
コメント 本事業は、「地域の社会課題に即した革新技术を創生する起業家・技術者」と「新たに創生された革新技术を日印社会に適切に実装する政策立案者・研究者」の育成のため、日印の学生交流を中心とした国際リンケージ型学位プログラム（ILDLP）を構築し、補助期間終了後も継続できるシステムを確立することを目指し実施された事業である。 事業展開では、プログラムを通じ、成績管理や単位認定について柔軟な取組を行い、広島大学及びIIT インド側大学等8校の間で効果的で質の保証を伴った大学間交流の枠組が形成された。また、コロナ禍に実施したオンライン交流においても、日印双方のアカデミックカレンダー及び時差を考慮して、プログラムを6-7月、12月に集中して実施する等、学生が受講しやすいよう柔軟に対応した点が評価できる。各教育取組においては、日印の文化や社会への理解を深めるため、企業訪問や自治体、地域のNGO等と対話する機会を提供し、広く産官学の連携や地域との協働を促した。コロナ禍においても、各教育取組のオンライン化にいち早く取り組み、円滑なプログラムの継続に努めたことも評価できる。 一方で、全学的な運営体制の構築や産官学連携等については評価できるものの、本事業の中間評価時に示されていた、「日本人学生の外国語力」の課題をはじめとする懸念については、大きな改善が見られなかった。今後もインド科学産業研究委員会との教育連携等、広島大学の国際展開に戦略的に組み込み、日印交流を継続・発展させる計画も持っているところから、引き続きこれらの課題への一層の対応が望まれる。 最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的な事業展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。	